

サーチライト With Pastor Jon 黙示録 第4章 パート4

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りょくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞かならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238

Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rin

彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」(黙示録 4:8)

これらケルビムは、昼も夜も休まず言い続けます。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。」

なぜ3回かと言うと、私たちの神が、父と御子と聖霊の三位一体の神だから。

彼らは機械ではなく知的で、“カリブの海賊”のような自動仕掛けではないので、「聖なるかな～聖なるかな～聖なるかな～昔いまし、今いまし、後に来られる方～」のように設定されている訳ではありません。

彼らはそれをするために創られたのではないのです。

では、どういうことでしょうか。

前回お話ししたように、彼らには目があって見えるのです。

普通は、内情を知れば知るほど、見れば見るほど「何てこった…」と思うでしょう。

「結婚生活が続くと思ったのにダメだった。」「あの人が変わると思ったのに変わらなかった。」「あのミニストリーは大きくなると思ったのにならなかった。」

「今年は変わろうと思ったのに何も変わっちゃいない。」

このように外側から他者を見た時、或いは内側から自分を見た時、不満は溜まる一方で、見れば見るほど、知れば知るほど幻滅し、がっかりさせられます。

ケルビムは熟視し洞察できます。それで、突然何かに目が釘付けになります。

聖なる方に。

『聖なる』とは『完全なる』ということで、罪に侵されず、墮落せず、偽善的でもなく、嘘もつかず、裏切らず、完全。

そのことに彼らは大興奮で、完全なる方がおられることに心底感激して、ひれ伏して言うのです。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」

それから立ち上がって進もうとすると、再び主が目に入り、また感激して大興奮で、ひれ伏して「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。」

そして行こうとすると「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。」

そしてまたひれ伏す。

ただただ感激して賛美するのです。

晩御飯を食べに帰宅しようとする「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな!!」

それがいつまでもいつまでも続くという感じです。

彼らはプログラムされたゼンマイ仕掛けの天使ではなく、洞察力と見ることのできる目を持っていて、美しいものを見ているのです。

清さ以上に愛すべきものはありません。

女性でも、男性でも、若者でも、教会でも、家族でも、清さだけが本当の意味の喜びを与えられます。

人間関係でも、性的にも、家族の間でも、何であっても、清さ・完全さなのです。

この生き物たちはそれを見ていて、だから、そこから目が離せないのです。

男性の皆さん、いつも奥さんをあなたに夢中にさせたいなら、清くありなさい。

あなたが清ければ清いほど、奥さんはあなたから目が逸らせなくなる。

奥さんたち、夫にいつも見られていたいなら、清くありなさい。

主を愛し、主と一緒に時間を過ごしていく。

完全さが人を惹きつけるのです。

それが本当の天国です。言っていることが分かりますか。

彼らは完全なる方から目を離すことができません。

また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、栄光、誉れ、感謝をささげるとき、二十四人の長老は御座に着いている方の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前に投げ出して言った。(黙示録 4:9 - 10)

御座の回りではケルビムが礼拝し、24人の長老たちは、冠を取って主の前に投げ出しています。

紙とペンがあるなら書き留めて下さい。

聖書の中には、私たちが受け取ることのできる5つの冠が出てきます。

もっとあるかもしれませんが、具体的に書いてあるのはこの5つ。

第1は義の冠。

主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。(第2テモテ 4:8)

なので、今夜皆さんが、「主が早く来られるといいのに。」「この世にはあまり興味がないんだ。」「しばらくの間この世にいるのは構わないけど、今日、主に来て欲しい。」と思っているなら、第2テモテ 4:8によると、このように主を待ち焦がれる人に、義の冠が与えられます。

どうして、義の冠と呼ばれるのでしょうか。それは、

キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。(第1ヨハネ 3:3)

主を待ち望んで、いつも主が来られるのを気にして生きる人は、正しく生きるのです。

「今日、主が来られるかもしれない!」と思っている人は、この会場を出てすぐあっちの世界へなんてことはしません。

第2はいのちの冠。

神を愛する者に約束された、いのちの冠を受けるからです。(ヤコブ 1:12)

ここでは皆さん、「ハイ!愛しています!!」と言うでしょう。

「イエス様を愛しています。」「本当に大好きです。」

「私の心はいつも彼に向いていて、彼に全てを捧げます。」

そんなあなたは、いのちの冠を授かります。

どうして、いのちの冠と呼ばれるのでしょうか。

それは、イエスがこう言ったから。

「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」(ヨハネ 14:6)

「わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:10)

主を愛するなら主と共に歩むでしょう。そうするなら豊かないのちを得ます。
主と共に歩んだ分だけ、豊かないのちを得ることができるのです。
だから、主を愛する人にはいのちの冠。

第3は栄光の冠。

あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠を受けます。(第1ペテロ 5:4)

どうして栄光なのでしょう。

以前お話しした通り、天幕の回りで仕えるのは“しもべ”です。
主に仕えることで、主の栄光を肌で感じることもできるのです。

第4は魂を勝ち取る者の冠。

魂を勝ち取る人、証しをする人、信仰を人に伝える人は、魂を勝ち取る者の冠を受け取ります。(第1テサロニケ 2:19)

「他の人も救われるように。」と願う人は、この特別な冠を受け取るのです。

第5は黙示録 2:10にある、いのちを捧げる者の冠。

私の個人的意見ですが、いのちを捧げる者の冠は、迫害の中でいのちを捧げた人だけでなく、正しい事をするために従順していのちを捧げた人も受け取る。

関係修復のためにイエスから離れるのは簡単です。

でも安易な方を選ばず、自分を殺して主が望むことを行う。

たとえ、そのことでいのちを落としても、「主が私に望まれることをする！」

私はこういう人たち、簡単な道を選ばず、肉の思いに従わない人たちも、この冠を受けると思います。

さて、ここ、よく聞いて下さい。

人々にこれらの冠の話をする時、前にも言ったように「ふん。天国に行けさえすれば、それで満足だ。」

いいですか。冠は大切なのです。

「関係ないさ。あんたは冠をもらうんだろ。良かったねえ。」「それを御座の前に投げ出して、だから何なのさ。」

こう考えてみて下さい。

あなたは軍に召集され、ある所に配属されました。そこで驚くことが起こるのです。

その日はあなたの初日で、そこにいると、最高司令官が入って来てあなたに言います。

「この帽子を君にあげよう。使ってくれ。」

最高司令官は、自分がそうしたいと思う者にそれを与える権利があります。

見てみると、それはつば付きの軍帽で、つばの部分には誰かがそこでクシャミをしたような金色の何かがくっついていて、帽子の正面には5つ星。

「最高司令官殿、お気持ちはありがたいのですが、私は帽子には興味がなくて、この帽子やつばについているモノ…あまり魅力を感じないので、他の人と同じカーキ色の帽子で結構です。」

すると最高司令官はこう言うでしょう。「君は分かっている。」

「いえいえ、大丈夫。私はカーキ色の帽子で満足です。」

実は、この5つ星の帽子はただのファッションではなく、これによって信じられない扉が開かれるのです。

あなたは5つ星の幹部になり、兵舎ではなく幹部司令官の豪邸に住める。

見晴らしの良い高台にあって、ビーチが目の前。

使用人もいて、毎日誰かが制服にアイロンをかけてくれ、美味しいご馳走が食べられる。

どこへでも行きたい所へ行けて、バケーションには自家用機を使う。

必要な物は何でも揃う。すべてが可能。

それらはこの帽子に付いてくる。

あなたが頭に被った5つ星の変な帽子が、それらの扉を開くのです。

ただ頭に被るだけのものではない。

重要なのは、その帽子によって与えられるものです。

しかし多くのクリスチャンがこのことを理解しておらず、「そのカーキ色の帽子で十分さ。」と言います。

カーキ色の帽子は訓練生のもの。あなたはトレーニングするのですか。

選ぶのは自分です。

将軍が住む高台の豪邸か、兵舎でトレーニングか、どちらの帽子を選び取りますか。

私は将軍の帽子を取りますよ。

これが冠なのです。

ただ頭に被るだけのものではない。

これによって開かれるもの、機会や祝福や褒美、その他色々…

ホワイトハウスの大統領の首席補佐官よりももっとすごい。

これらの冠はものすごい！

そのすごさは5つかもしれないし、もっとあるかもしれません。

それらは私には分かりませんが、でも、私が知っているのは、聖書に何度も何度も書かれている、「賞を受けられるように走りなさい。」(第1コリント9:24)

聞いて下さい。

霧のようなこの人生だけが、冠を得るためにチャンスとして与えられている期間なのです。この期間だけ。

これを逃すと他はないのです。

この先、千年、一万年、千万年、一億年、一兆年でも、無限に待っても、これで終わり！

この人生の期間しかないのですよ、皆さん。

終わりはどんどん近づいています。

私の預言理解が正しければ、終わりは思っている以上に早くやって来ます。

そして、今私が自分の時間、お金、労力、人生を用いて行っていることが、最終的に、私が行く場所を決定するのです。

将軍の豪邸か訓練生か、永遠にずっとずっとずっとずっとずっとずっとずっと。

だからこの章はとても重要なのです。

天国が現実で、この世は影。

この世は過ぎ去っていき、変わっていく。

自分の快樂や興味、肉の欲求のために生きてはいけないと明確に悟れば、この世はさほど重要ではありません。

目標はずっとずっと上にあり、それが一番重要で、だから私は主に感謝するのです。

「主よ、あなたの御座が、憐れみと恵みの御座であることに感謝します。」

もしかしたら、私は今夜死ぬかもしれない。あなたも。

もしかしたら、明日、主が来られるかもしれない。

もし人生が終わったら、今のあなたはどんな冠を、何個受け取れますか。

「ジョン、頭が痛くなってきた。」

良かった。

皆さんと私が、今日、頭を抱えて本気になる方がいい。

この世の小さなことを手放して、賞を受けるためにこのレースを走り続け、永遠のために生きるのです。

そして本当に、将軍の豪邸でみんなに会いたい。

それが現実で、人生は影だから。

「この世の人生が現実だ。天国はぼんやりとしていて、何を意味するのか、そこで何が起るのか誰も知らないし。」と私たちは考えていますが、聖書は全く反対のことを示しています。

「人生は霧のようなもので影である。天国が現実で永遠に続く。」

ところで、どうして 24 人の長老たちは、冠を取って投げ出しているのでしょうか。
どうして彼らはこう言うのでしょうか。

自分の冠を御座の前に投げ出して言った。(黙示録 4:10)

「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。
(黙示録 4:11)

あなたに主を愛する力を、証人となる能力を与え、ミニストリーに人生を掛けられるようにしたのは誰ですか。

誰がその能力を、情熱を、チャンスを与えたのですか。

誰があなたに聖霊を注いだのですか。

すべて、主が成されるのです。

だから天に行った時には、「主よ、私が人生で行なったことは、全てあなたの誉れであって、私にはこれらの冠を受け取る資格がありません。」

「主よ、あなたの誉れです。私の実力でも能力でもなく、あなたの御霊、全てあなたです。」

彼らが冠を投げ出したとして、何かが変わるでしょうか。

仮にシュウォルツコフ将軍が、最高司令官の前で帽子を取って敬礼したとしても、そのことで彼の地位や特権が失われることはありません。

彼らが冠を投げ出しても、彼らが勝ち取った地位や権威を失うことはないのです。

神の恵みです。

しかし、言っておきます。

天国では、これらの賞や地位は重要です。

もし私がここでただ座って、人生を無駄に過ごしたとしたら、その日、主に差し出す冠を何も待たないことになる。

これは、ものすごい悲劇です。

「主よ、私は良い車に乗って、ラケットボールもやってました。家の芝生は青々としていたし、新しいソファもありました。あのソファ、ステキだったでしょ。」

お金、時間、労力を無駄にして、と言っても、車が悪いとか、芝生は枯れているべきだとか、居間にソファを置くべきではないとか言っているのではありません。

そうではなく、これらのことに囚われるべきではないということです。

あればいいし、なくてもいい。

でも本当に知恵があるなら、永遠を優先するべきです。

これらのものは全て影に過ぎないから。

「あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。
あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」(黙示録 4:11)

大切なことが二つあります。

一つ目は 11 節の最後のフレーズ。

彼らが 4 章で行なっているのは賛美です。

昼も夜も「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。」

御座に着いている方の御前に冠を投げ出して、「あなたこそがふさわしい方！」

彼らはパワフルに歌います。

賛美が天国で行なわれていることを、ただの情報として皆さんに言っているのではありません。

今夜、心の中に、また家庭の中に天国を求めている人に伝えたい。

今、あなたが職場で地獄のような状況にあっても、誰かとの関係がメチャクチャになっても、賛美することによって、そこに天国をもたらすことができるのです。

車の窓が壊されて CD プレーヤーが盗まれた時、「どうして私なのか。善人になぜこんなことが起こるのか。私は迫害されている。」「何てことだ。この町も悪くなってきた。モンタナに引っ越すぞ！」といつまでも呟き続けて、地獄にすることもできます。

しかし賛美し始めて、この状況に天国をもたらすこともできるのです。

「主よ、感謝します。車は盗まれませんでした。」

「フロントガラスじゃなくて良かった。ありがとうございます。」

「主よ、感謝します。誰かが、そうとは知らずに讃美歌を聞いています。」

「全てのものはいつか壊れることを思い出させて下さって感謝します。人生について理解することができました。」

「主よ、あなたを愛します。あなたは素晴らしい。」

選ぶのは自分です。いいですか。

天国でのプログラムは賛美。

あなたの中に天国をもたらしたいなら賛美しましょう。

二つ目は創造の目的。

11 節の最後のフレーズ、アンダーラインを引いて下さい。

あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在し、また創造されたのですから。」(黙示録 4:11)

皆さんを含め、すべての被造物は、ただ一つの目的のために存在することを知っていましたか。

それは、神の喜びのため。

「とんでもない。どうしてそうなる？ 私たちも他の被造物も、すべてが神の喜びのために創られた？」 そういうものです。

「気に入らない。」 まあ、頑張ってください。

すべては主の喜びのために創られました。

私のいのちも妻も子供たちも。

私の回りにあるものすべて。この教会も。

すべてのものは、『主を喜ばせるため』というただ一つの理由のために存在しています。

あなたが、主を喜ばせるという自分の存在目的を全うしていく限り、あなたの魂の最も奥深い部分に主の喜びが成就するのです。

どうすればいいのでしょうか。

まさしく、賛美することです。

彼らが昼夜行っているのと同じように。

みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。(マタイ 6:10)

天では主を礼拝し、主を愛し、賛美し、歌い、栄光をほめたたえ、喜んでいるのです。賛美。

それは天国でのプログラム、創造の目的です。

私たちの人生、私たちの世で、主のみこころが行なわれますように。

神よ。

私の心はゆるぎません。

私の心はゆるぎません。

私は歌い、ほめ歌を歌いましょう。(詩篇 57:7)